



Nutrition Support Times

栄養管理DPC対策を考える

DPC 下の病院で栄養管理で変わる
こと ポイントは3つあります

- ① 中心静脈栄養は可能な限りさけること
- ② 薬剤として栄養剤を出すのはさけること
- ③ 適切な栄養投与は在院日数の削減につながるため、必要な栄養投与を怠らないこと

薬剤はすべて料金をとれなくなりません。つまり、点滴はすべて、経腸栄養剤もラコール、エンシュアリキッド、アミルバン EN は病院の持ち出しになります。皆さん、中心静脈カテーテルがいくらか、フルリックがいくらかご存知ですか？ほかの手段がない場合、食品としての経腸栄養剤が不適当な場合は、当然栄養を投与するべきなので、薬剤としての経腸栄養剤を使用すべきなのですが、代替手段があるばあい、つまり食品としての経腸栄養剤で対応可能な場合はできるだけ食品でだしてください。現在はメイエフ、レナウェル、夕ポン、テルミール 2.0、サンエツ、オキシーパ、GFO は食品です。

栄養投与をきっちりして在院日数を減らし、予後を改善、しかも病院の経営改善に少しでも寄与できればよいのではないのでしょうか。経管栄養は腸粘膜を保護し、腸管免疫を保全し、炎症反応を下げ、創傷治癒を促進し、感染性の合併症を減らします。できるだけ経腸栄養をおこなってください。無理な場合は、栄養投与は必要ですので、完全中心静脈栄養を行います。

DPC については特集号を企画しています。どうぞ参考にしていただければと思います。

NST 担当制について

先月より、新規に NST コンサルトを受けた患者さんには、栄養療法専門療法士がひとりひとり担当についていると思います。これは、どうしても週一回では目が行き届かず、また主治医の先生やリンクナースの方々が NST のだれに相談していいかわからなかったことを解消し、こちら患者さんの情報を把握しやすく、患者さんの予後も改善できることを期待したた

めに開始しました。ぜひ気になる点などがありましたら担当者に声をおかけください。また、こちらからも状態の把握のためにお聞きすると思います。お互いのよりよいコミュニケーションが患者さんの予後改善につながると思います。また、今年、当院が NST 専門療法士教育認定病院に再度認定されました。以下の条件を満たした方は専門療法士受験資格が得られます。是非受験し、みんなで勉強して自らのスキルアップおよび患者さんによりよい医療を提供し続けられるように努力していきましょう。また他院から実習申し込みなどがあるかもしれません。皆様のご協力をお願いいたします。

<NST 専門療法士受験資格>

- ① 5 年以上の実務経験
- ② 必要な単位の取得 30 単位
- ③ 学会認定の教育認定施設での臨床実地訓練の終了 40 時間 (当院は教育認定施設ですので、他施設へ行く必要はありません。)

NCM 講演会予定(第4木曜日)

月日	内容	担当
4/23	栄養超基本	東別府先生
5/28	特別講演	院長
6/25	経腸栄養&試飲会	東別府先生
7/23	経静脈栄養	未定
8/27	経口摂取と食事	未定

NST カンファレンス・回診
毎週水曜日 pm1:00~8 北(861) NST カンファレンスルーム

来年度に向けて

突然、薬剤部岩森副部長が先端医療センターに異動され、NST は大きな痛手を受け、移転に向けての業務が膨大に膨らむ中、PPM 方式の当院 NST は危機的状態を迎えようとしています。クリアしていかなければいけない課題はたくさんあるにもかかわらず、活動をすすめる上での困難は増大していきばかりです。とりわけ NST 専門療法士教育認定施設となり、研修生の受け入れをしなくてはいけなくなり、メンバー全員の協力がいっそう必要になります。カリキュラム実施がスムーズに行くようがんばりましょう。



NCM 講演会

NCM 講演会も第 41 回を向かえ、今回は若草第 1 病院の山中先生をお迎えして「栄養管理とチーム医療」というテーマでお話をいただきました。先生は長年チーム医療にかかわられて、その有効性と重要性を熟知されており、いかにしてやっていくか、ヒントをたくさん教えてくださいました。特にハードよりもソフトを大事にしていくことがチーム医療そして病院には最も必要なことであること、働く人たちの気持ちを一番に考えた中身が何をやるにも大切だと言われていました。当院の NST には何が足りないのか、活動していくには何が 필요한のか。職種間でもっと助け合うことができるのではないのか、病院運営の中でもっとチーム医療としての NST をバックアップしてもらえないのか。それにはどうしたらいいのか、などあらたな課題をもてた講演でした。